

# 住友化学 i - 農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第138号 平成28年6月30日  
 発行 住友化学(株) アグロ事業部  
 お客様相談室 0570-058-669  
 編集者 太田有香  
 発行責任者 竹迫昭弥

## 目次

農家さん訪問記 (122)【北海道・小麦、メロン他】	p. 1
住化アグログループ紹介 住化農業資材(株)	p. 5
第3回農業普及活動高度化全国研究大会資料	
【静岡県・うなぎいも(かんしょ)】	p. 6
今月のご相談から【スミチオン乳剤/アンビルフロアブル/ベストガード水溶剤/楽一・スーパーSRコート】	p. 12
農薬登録情報	p. 13
7月のおすすめ製品	p. 14
★新★農業高校の今	p. 15
【お知らせ】ロビンフード販売開始! 他	p. 19
★新★i-農力だより農園	p. 20
美味しい時間へようこそ♪	p. 21
編集後記	p. 23



レンゲツツジとツメナガセキレイ  
 富樫 信樹 画

## 農家さん訪問記(122)

# 創意と工夫で新しい農業にチャレンジ

今回、北海道積丹(しゃこたん)半島の西南部に位置する共和町で小麦や水稲、ダイズ、メロン、ブロッコリーなどを大規模に栽培されている山本耕拓(やまもとたかひろ)さん(35才)を訪問しました。訪問日(5月12日)は最高気温が12℃。本州の感覚ではまだまだ冬でしたが、それでも山野の木々には新葉が伸び、チューリップが満開で、春の到来を感じさせます。

山本さんに栽培や農業経営についてお話をお聞きしましたが、取材後の感想として、ご自身で栽培方法や栽培技術を工夫され、日々考えて運営されており、「日本農業の強みは創意工夫ではないか」と感じました。今回の農家さん訪問は、この創意工夫を中心にレポートします。



山本 耕拓さん

まず山本耕拓さんの略歴です。山本さんは共和町で農業を始めて5代目、ご先祖は広島県出身

とのこと。ご両親と奥さん、それに9名のパートさんで水田5ha、秋まき小麦3ha、春まき小麦4ha、ダイズ3ha、メロン3.5ha、ブロッコリー2.5ha、苗の生産(50mハウス12棟)等で農業を営んでいます。高校を卒業後、1年間ハワイで高原野菜の栽培を研修し、その後スイスにも1年間留学して畑作物や酪農について学んだ経験があります。その経験と技術を活かし、祖父の時代は米だけの農業、父の代となって開始したメロン栽培に加え、次々と新しい試みにチャレンジしています。

## 稚苗移植と代かきをしない省力栽培(水稲)



均平化前の水田

水稲は品種として、ゆめぴりか、彗星(酒米)、それにご当地独自の配合米(ほしひめ)の生産も行っています。北海道は成苗ポット移植が多い中、省力のために、本州では一般的な稚苗移植を行っています。成苗移植だと、育苗期間が長いことに加え反当りの必要育苗箱数が40枚程度で、育苗に広い面積が必要です。一方、稚苗では20枚強の枚数で済み、育苗期間も短縮でき省力となります。苗づくりもロックウールのマットを使用し、軽くて1日で播種作業が終了すること。箱処理剤はスタウトダントツ剤を使用しています。いもち病が大発生した年があり、被害を受けたので、その後はいもち病防除剤を必ず散布しているとのこと。

更に、田の耕起ですが、荒起こし後にパワーハローで粉碎し均平化するのみ。代かきを行わない栽培を実践しています。最近ではレーザーレベラーにより均平化が正確にでき、これも代かきをしないで済む理由の一つだそうです。代かきを省略することで田の水持ちが悪くなりますが、入水を計画的に行うことで問題はないとのこと。代かきの省略で春の作業にゆとりができ、農作業が著しく楽になったそうです。

北海道で稚苗移植、代かき無し。この栽培は、栽培技術に加えてご当地の気象状況や土壌状態を良く理解していなければ実行できないことです。栽培技術を柔軟に現地に応用していることに敬服しました。

## 計画的な作付とローテーション(麦、ブロッコリー)

小麦は秋まき小麦と春まき小麦の両方を栽培しています。秋まき小麦は3ha、春まき小麦は4ha。秋まき小麦は9月播種で7月下旬に収穫します。一方春まき小麦は、4月に播種して収穫は8月上旬となります。栽培作物のローテーションの関係で両小麦を栽培しています。春まき小麦の品種は倒伏に強い“春よ恋”。春まき小麦のメリットは縮萎縮病に罹病しないことです。また、単価が高いメリットもあります。小麦の後はブロッコリー。ブロッコリーは8月中旬までに定植し11月下旬までに収穫します。

春まき小麦を製粉しパスタを作って、ご自身のブランドで販売する6次産業も始めました。小麦の製粉は江別製粉で行い、パスタの製造は製麺所に委託しています。餅は餅屋で、農家自らパスタの製造を手掛けることはハードルが高く、そこで委託しているとのこと。試作したパス

タの品質も合格で、近くのレストランに供給することから販売を開始しています。

ところで、水稻や小麦を大面積で栽培するには農業機械を多数揃える必要があるように思えます。所有されている農機具をお聞きすると、小型・中型の古い機械が5台ほどあるだけとのこと。大型機械は仲間11名で共同で所有しています。北海道の農業は規模が大きく収入も多いですが、一方、農機具等の維持管理にコストがかかり、それが負担になっているそうです。共同所有による農機具の経費削減は、今後ますます重要になると思われます。



秋まき小麦の生育状況

## 自根苗と無灌水で省力栽培（メロン）

ローテーションで作付しているのので、メロン栽培は、各畑では4～5年に一度となります。栽培していない期間が長いので連作によるセンチュウや病気の心配もなく、メロンの苗は接ぎ木をしない自根苗を使用しています。苗は自分で生産しますが、3.5ha分の接ぎ木苗を作ろうとすると大変な手間がかかり、接ぎ木の必要がない自根苗で省力が図れます。

栽培も工夫しています。通常は畑にマルチを張って定植し、灌水チューブも設置していつでも灌水できるようにします。しかし山本さんは灌水チューブを設置しません。きちんと砕土しマルチ・定植すると、灌水の必要はほとんど無いとのこと。よほど日照が続いた場合はスプリンクラーを設置しますが、ここ何年かはスプリンクラーを使用することも無く、完全に無灌水で栽培しています。

農薬散布も工夫されています。散布は暗くなってから行います。その理由は葉が立つこと。昼間は葉が横に広がっているの散布しても葉の裏面に薬剤が付着しにくい。一方、暗くなった後は葉が立つので裏面への付着が良くなります。この散布で、農薬の削減や効力アップにつながります。

一つ一つの作業工程を工夫し、省力や効率化を図る。この創意工夫があればこそ現在の大規模経営が図れている、そのように感じました。

## 苗の生産

12棟のハウスでは、ご自身の畑で使用する苗に加え、周辺の農家さんや自治体から委託された園芸作物や花の苗を生産しています。メロン栽培のために苗を生産していることが自然に苗の生産に結びついたということです。ハウスを見学させてもらくと、シーズンなので、花ではペチュニア、マリーゴールド、サルビアなど、その他に色々な種類の花弁類や作物の苗が栽培されていました。ハウス内も整理整頓が行き届いており、綺麗に管理されています。



ハウスでの育苗

テンサイの苗生産に、住友液肥M441号を試験的に使用され良好だったとお聞きしました。

住友液肥M441号の1000倍希釈液を3回施用しました。その結果、葉色が濃く、根の張りも昨年の苗よりも良好で、委託元の農家に喜ばれたとのこと。テンサイの苗は既に出荷済みで見ることができませんでしたが、素晴らしい苗であったことでしょう。

## “あぐサポ”の利用

“あぐサポ”とは、弊社が開発した農業経営支援システムで、日々行っている農作業を記入することで、圃場ごとに作業計画や栽培管理ができ、GAPにも対応できるシステムです。山本さんと住友化学とのご縁は、山本さんが“あぐサポ”をご利用いただいたことから始まっています。山本さんにその経緯をお聞きしました。「栽培面積が増えると、個々の畑が飛び飛びになってしまう。ビジュアルに管理できるような畑の衛星写真を利用するシステムを探したが、多くは多額の費用がかかる。“あぐサポ”は登録すれば無料で使用でき、また、GAPにも対応できるので利用している」。今後も継続して“あぐサポ”を活用されることを期待します。

## 今後の抱負

最後に今後の抱負をお聞きしました。「農家の高齢化に伴い、栽培管理の委託が増えることが予想されます。その委託先としてまかせて安心と思われる農家になることをまず目指しています。栽培管理をきちんと行う信頼される農家です。6次産業化で大都市や海外へ農産物を販売することも将来の課題と考えています。その一環としてパスタの販売を始めましたが、まず地元で成功させることが重要。大消費地への拡販は、それから考えます」。

「若い頃広島県周辺とスイス（研修中）を自転車でツーリングしたことがあります。その時の綺麗な農村景色が今でも印象に残っています。北海道もツーリングの観光客が多い。きちんとした栽培で綺麗な畑を見せられるようにしたい。これも目標です」。「それから、今後も人との出会いを大切にしたい。今まで色んな人から色んな事を教わった。代かきをしない省力栽培もそのひとつ」。

山本さんが将来、ご当地農業の中心人物として更にご活躍される姿が目に浮かぶようです。

（酒井、泉）



山本さん（バックはご自身の春まき小麦）



[目次へ戻る](#)

住化アグログループ紹介

住化農業資材株式会社

頭上から均一にやさしく灌水、連棟にも使用可能な灌水チューブ

## ミストエース S ナイアガラ63

住化農業資材株式会社では、ハウス内両サイドの頭上からミスト状に均一灌水できる灌水チューブ「ミストエース S ナイアガラ63」を開発、発売しました。

本品は、ハウスの両サイド 1.8～2.0mの高さに、入口から奥に向かいチューブを縦向きに設置。左右両側から同時にハウス全面をムラなく、均一に灌水できます。高所に設置することで、連棟ハウスでも谷下の移動が簡単にできるため、作業効率が高まります。

最適な用途は、葉物への灌水、イチゴ・切り花の定植後の灌水、水稻などの育苗用の灌水などです。

### 使用例紹介



写真1. イチゴ連棟ハウスでの使用例



写真2. 灌水チューブ設置状態

### (特徴)

- ① ハウス内の 1.8～2.0mの高さに設置するため、連棟ハウスでの使用が可能。
- ② 設置位置が高いため、トラクターを利用した畝たて作業のじゃまにならない。
- ③ ミスト状の散水なので、土の跳ね返りが無く、やさしく作物全体を濡らすことができる。
- ④ 間口 6～6.3m、長さ 60mまでのハウスで使用可能。
- ⑤ 縦向きに設置するため、たるみがでにくい。
- ⑥ チューブの耐用年数は、5年以上。

本品の専用吊り具として、ハウスの支柱にパイプやエスター線を固定する「ナイアガラ用固定具」「パッカ一式吊り具アームナイアガラ用」「スミサンスイR用ハンガー」を用意しております。

お問い合わせはこちらまで

住化農業資材(株)本社 灌水資材部 TEL:06-6204-1241 <http://www.sumika-agrotech.com>

北海道営業所 TEL:011-382-2541 東日本営業所 TEL:0285-23-1935

四国営業所 TEL:0897-32-3648 九州営業所 TEL:0968-37-4450

[目次へ戻る](#)

昨年11月18日・19日に東京で開催されました「第3回農業普及活動高度化全国研究大会」で発表された資料の中から、一部をご紹介します。（掲載資料は発表されたものに準じます）

## 第3回農業普及活動高度化全国研究大会資料

課題名 「うなぎいも」を浜松発の全国ブランドに！～うなぎいもの産地化の支援

所属・氏名 静岡県西部農林事務所 山崎 明

### <活動事例の要旨>

静岡県西部農林事務所は、企業の農業参入支援や、6次産業化の推進、耕作放棄地の解消の点から、有限会社コスモグリーン庭好（以下「庭好」）の支援を平成22年に開始した。平成23年にうなぎの加工残渣を活用したうなぎ堆肥で栽培したサツマイモを「うなぎいも」と命名し、商標登録された。

その後、うなぎいもの関連商品の増加やうなぎいも生産者・栽培面積の増加に伴い、支援対象や指導内容は拡大し、農林事務所は、関連機関と連携し、①商品開発とブランド化、②耕作放棄地等を活用した生産基盤及び生産体制の整備、③生産性の向上の3つを普及指導計画の柱に据え、普及指導活動を進めてきた。

この結果、うなぎいも関連商品は42商品、販売額約5億円となった。また、生産組織である「うなぎいも協同組合」（以下「組合」）が設立され、うなぎいもの生産面積は17ha、生産量は374tにまで拡大した。

うなぎいもの産地化の活動は、商品開発・ブランド化などの6次産業化の指導を先行させ、需要の増加に応じて耕作放棄地等を活用した生産基盤の整備及び生産強化の指導を行ったことが特徴であり、企業の農業参入の成功事例として多くの企業のモデルとなっている。



写真1 うなぎいもと商品

## 1 普及活動の課題・目標

### (1) 課題の背景

西部農林事務所管内は、静岡県西部の浜名湖周辺地域、天竜川以西から愛知県境に位置し、長い日照時間を生かした野菜や花き、果樹などの園芸作物のほか、水稻、畜産などの生産も多い地域で、全国でも有数な規模のとびあ浜松農業協同組合、ミカン・牛肉で有名な三ヶ日町農業協同組合などの総合農協があり系統出荷の農産物が多い。

しかし、担い手の高齢化や耕作放棄地の増加などの課題を抱えていた。

このような中、農林事務所は、一定規模の売上を持つ農業法人（ビジネス経営体）の育成を進めており、経営改善の手法の一つとして6次産業化や農商工連携を推進してきた。

また、市町や農業委員会、JA等と協力し、耕作放棄地の解消や担い手への農地集積に取り組んでいる。特に、浜松市は特区制度を活用した企業の農業参入を推進してきた。

### (2) うなぎいも産地化に係わる課題

庭好は、造園業で発生する剪定枝などの堆肥生産を契機に平成21年に農業参入し、耕作放棄地を活用してサツマイモの生産を行い、これを加工したプリンを製造販売していたが、サツマイモの生産性の低さや加工品のブランド化、新たな商品の開発等の課題を抱えていた。

また、平成24年頃から、生産者の増加に伴い、生産技術の平準化などが課題となっていた。

### (3) 農林事務所における支援の位置付けと目標

農林事務所は、平成 23～25 年の普及指導計画において、耕作放棄地の解消の担い手として、また、6 次産業化推進モデルの重要な支援対象として庭好を位置づけた。さらに、平成 26～29 の普及指導計画では、組合を普及指導計画の対象に位置づけた。

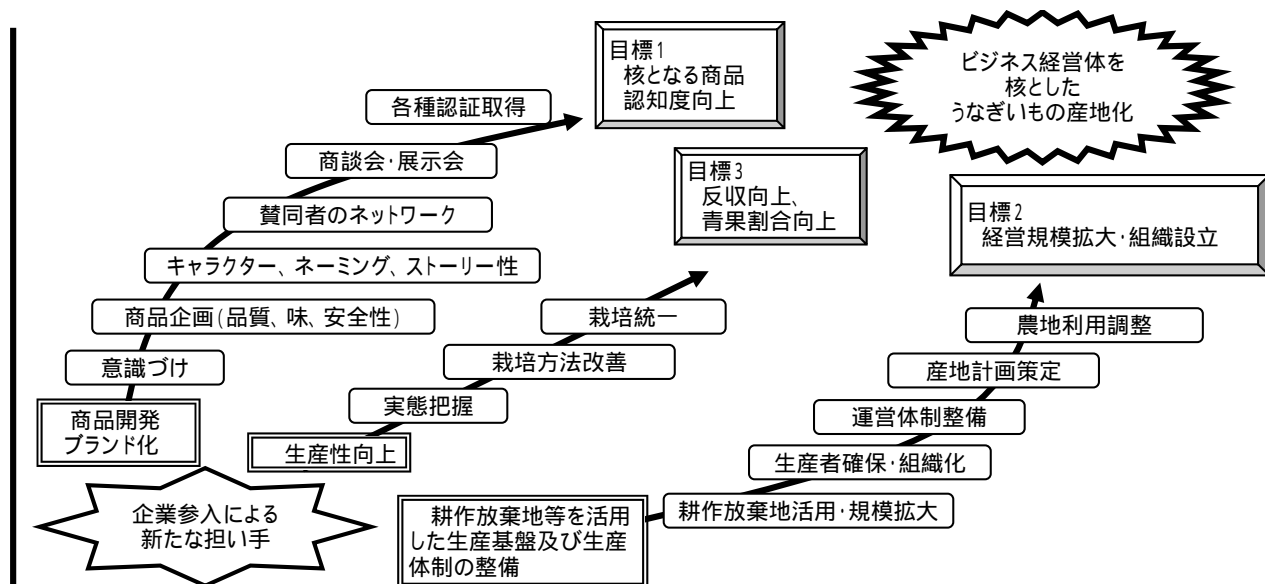


図1 産地化を図るための推進フロー図

2期にわたる普及指導活動計画では、3つの視点で活動するとともに、関係機関との調整役としての役割を果たしてきた。

- ① 商品開発とブランド化
- ② 耕作放棄地等を活用した生産基盤及び生産体制の整備
- ③ 生産性の向上

表1 関連する農林事務所の普及指導活動計画

年度	普及指導活動計画の課題名	指導対象
H23～25	多様な担い手による耕作放棄地解消対策の推進と地域農業の活性化	庭好
	地域農林水産物の特性を生かした新商品開発とその魅力の発信	庭好
H26～29	多様な担い手による耕作放棄地解消対策の推進と地域農業の活性化	庭好、組合
	6次産業化による新たな産地の育成と農業者による販売促進組織の活動強化	庭好、組合

#### ア 普及活動の目標

##### (ア) 商品開発とブランド化

###### 目標1：核となる商品の開発、商品の認知度の向上

従来の農産加工は、規格外農産物の活用が主体であったが、味などの内容やストーリー性のある商品の開発を狙いとした。

また、販路の確保とあわせて、商品の認知度向上や取組の周知を図ることがブランド化に結びつくと考え、一過性で終わらない取組を目指した。

##### (イ) 耕作放棄地等を活用した生産基盤及び生産体制の整備

###### 目標2：耕作放棄地を活用した経営規模の拡大、生産者組織の設立

新規の農業参入者にとって、農地の確保が課題であることから、農林事務所は、耕作放棄地の再生利用を推進し、集落との調整により農地集積や規模拡大を支援した。

また、うなぎいもの需要の拡大に応じて、生産者の増加と組織化を目指した。

**(ウ) 生産性の向上**

目標3：反収の向上(0.6 2.5トン/10a)、青果仕向イモの割合(0 50%)

商品の認知度が高まるに伴い、平成24年頃からうなぎいもの需要が拡大し、生産量の増加・安定化が課題となった。うなぎいも生産者には新規参入者が多く、耕作放棄地などの条件不利地での生産が多い。また、食味を重視して導入した“べにはるか”は、当時地域内で生産されていなかった。これらの条件を克服して、収量の向上を図るとともに、加工用・青果用のバランスの取れた栽培方法の確立を目指した。

**2 普及活動の内容****(1) 活動の体制と進め方**

農林事務所では、地域振興課が①商品開発とブランド化を、企画経営課と地域振興課が②耕作放棄地等を活用した生産基盤及び生産体制の整備を、園芸畜産課が③生産性の向上を分担し、市やJA、商工会議所などの関係機関と連携を図り、総合的な普及活動を行った。

表2 活動内容と年度計画

取組	内容	<取組年度>						担当	
		H22	H23	H24	H25	H26	H27	農林担当課	関係機関等
商品開発 ブランド化	商品開発・改良	←←←←←←←←						地域振興課	市
	販路開拓	←←←←←←←←						地域振興課	浜松商工会議所
	知名度向上・ブランド化	←←←←←←←←						地域振興課	浜松商工会議所
	加工施設整備	←→				←→		地域振興課	国・市
生産基盤・ 体制の整備	耕作放棄地活用	←←←←←←←←						企画経営課	市・JA
	施設(ハウス)整備	←→						企画経営課	市
	人材(雇用)確保	←←←←←←←←						企画経営課	
	生産者の組織化			←→				地域振興課	中小企業団体中央会
	産地計画策定					←←←←		地域振興課	
生産性 の向上	栽培マニュアル策定					←←←←		園芸畜産課	
	高収量、高収益					←←←←		園芸畜産課	
その他	堆肥製造	←→						地域振興課	産業振興財団
	ファンドの活用					←→			金融機関

**(2) 商品開発とブランド化に関する活動内容****ア 商品開発****(ア) プリンの品質向上**

平成21年の栽培開始当初、青果としてのサツマイモは売れ行きが芳しくなかったことから、地元のホテルの協力を得て、プリンの開発に着手した。

味の評価は高かったが、さらにブラッシュアップを図るため、農林事務所は、うなぎの残渣を餌として育てた地元産の鶏卵を使うことを提案し、養鶏農家との連携を進めた。

**(イ) ペーストの活用**

プリン製造に、サツマイモをペースト状にして使用していた。このサツマイモペーストを、庭好は儲かる商品として、自社商品の柱とするため、六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定やペースト加工施設整備に取組んだ。農林事務所は、総合化事業計画の策定や6次産業化推進整備事業(農業主導タイプ)の活用を支援した。



写真2 うなぎいもプリン



### (ウ) 関連商品の開発

うなぎいもを使った商品を「うなぎいもブランド認定商品」として認定し、ロゴやキャラクターの使用を認めることで、多くの事業者にうなぎいもの活用を促した。

農林事務所は、しずおか農商工連携基金事業の活用を通じて商品開発を支援した。

### イ ブランド化

#### (ア) ネーミング・キャラクターづくり

生産するサツマイモや商品が「浜松産」の商品としてイメージされることが重要であることから、浜松特産である「うなぎ」をネーミングに使い、平成23年にうなぎ加工残渣を使った堆肥で栽培されたサツマイモを「うなぎいも」と命名した。また、キャラクターを作成し、ネーミングを公募することにより知名度の向上を図った。

#### (イ) うなぎいもプロジェクトの立ち上げ

農林事務所は、うなぎいもの認知度の向上を図るため、関係機関に働きかけ、様々な業種の人が参加する「うなぎいもプロジェクト」（以下、「プロジェクト」）を立ち上げた。

#### (ウ) さつまいもフェスタの開催

プロジェクト活動の一つとして、加工業者や料理店でうなぎいもを使った商品・メニューを紹介する「さつまいもフェスタ 2012 秋」を開催し、うなぎいもやペースト、関連商品の商談の場を提供した。

#### (エ) 県の認証の取得

県は、県内産の特徴ある農林水産物を「しずおか食セレクション」として、また、県内産の農林水産物を使った新たな商品を「ふじのくに新商品セレクション」として認定しており、農林事務所は、この制度の活用を図るとともに、県主催の商談会において販路開拓を支援した。さらに、安全・安心に対する取組みを進めるため、生産工程管理を認証する「しずおか農林水産物認証」取得の支援やマニュアル作成指導を行った。



写真3 さつまいも  
フェスタ 2012 秋

### (3) 耕作放棄地等を活用した生産基盤及び生産体制の整備に対する活動内容

#### ア 耕作放棄地等を活用した生産基盤の整備

##### (ア) 耕作放棄地の活用

うなぎいもの生産拡大を図るためには、農地の確保が課題であった。農林事務所は、市、農業委員会、JAと連携して、耕作放棄地を再生させるとともに、農地の借り入れを支援した。後述する組合設立後は、組合員の農地の借り入れにおいても同様に、耕作放棄地の解消と連動した支援を行っている。

##### (イ) 育苗施設の整備

従来、浜松地域は、早掘りサツマイモの産地であり、4月に定植し7～8月に収穫が行われていた。農林事務所は、4月から6月まで定植し、8～10月に収穫する作付け体系を指導するとともに、春先の安定した育苗を行うため、育苗ハウスの導入を推進した。

#### イ 生産体制の整備（生産者組織の設立）

うなぎいも関連商品の増加に伴い、うなぎいもの生産量の



写真4 地元説明会



写真5 組合設立

確保が課題となっていた。このような中、新規参入企業や新規就農者など様々な生産者がプロジェクトに参加してきた。こうした地域の生産者の所得向上を図るため、プロジェクト参加の生産者により「うなぎいも協同組合」が設立された。農林事務所が、生産者の組織化と運営体制の構築を進めるとともに、連携機関である中小企業団体中央会が中小企業等協同組合法に基づく組合組織の設立を支援した。

#### (4) 生産性の向上に対する活動内容

##### ア 栽培マニュアルの策定

平成 21 年当時、農林事務所管内では食味の良い“べにはるか”は、ほとんど栽培されておらず、平成 25 年の組合発足当初は、組合員 29 経営体のうち 14 経営体が新規参入者であることから、栽培の基礎を習得させるために栽培マニュアルを策定した。

##### イ 収量の向上、青果仕向の安定生産

新規参入者が多く、耕作放棄地等の条件不利地が多いことなどから、生産性は低かった。一方、うなぎいもの認知度が向上するにしたいが、青果の需要が高まったため、それまでの加工品をメインとした生産構造を転換する必要が出てきた。農林事務所は、組合に適した栽培方法を研究するため、現地試験に取り組んだ。



写真6 栽培試験の収穫調査

### 3 普及活動の成果

#### (1) 課題及び目標の達成状況とその要因

##### ア 商品開発とブランド化

###### (ア) 商品開発

プリン、商品のブラッシュアップに加え、ミカンソースかけや焼き芋乗せ、チーズ入りなど商品アイテムを増加したことで、売上が2千万円まで増加した。

また、品質の安定したペーストを安定的に供給できる体制を構築し、活用を働きかけた結果、県西部地域で有名な菓子屋など20社で製造する42アイテムが認定商品となり、全体の販売額は約5億円となった。

表3 うなぎいも関連商品の開発

	H23	H24	H25	H26
認定商品数	8	20	29	42

###### (イ) ブランド化

プロジェクトは、農業者、関係業者、一般消費者等約250人が賛同し、平成23年11月に立ち上げられた。キャラクターは、全国から名前を公募し、最も応募の多かった「うなも」が採用された。

うなぎいもが「しずおか食セレクション」に認定され、「ふじのくに新商品セレクション」では、うなぎいもプリンとうなぎいも焼きチップスが金賞となったことで、県主催の商談会等に参加できるようになり販売促進につながった。



写真7 キャラクター「うなも」

##### イ 耕作放棄地等を活用した生産基盤及び生産体制の整備

###### (ア) 耕作放棄地の活用

浜松市や市農業委員会と連携し、担い手や集落等に働きかけたことにより、耕作放棄地の再生が進んだ。特に庭好については、すべての耕作地が耕作放棄地由来の農地となっている。

さらに、組合全体でも新規参入者が多く、耕作放棄地の活用は約84%となっている。

表4 庭好・組合の経営面積

区分	項目	H22	H23	H24	H25	H26	H27
庭好	作付面積 (ha)	1.8	3.0	5.0	8.0	9.2	12.0
	うち耕作放棄地活用面積	1.8	3.0	5.0	8.0	9.2	12.0
組合全体	作付面積 (ha)	—	—	—	13.5	15.6	17.0
	うち耕作放棄地活用面積	—	—	—	11.0	12.8	14.2

**(イ) 生産体制の整備**

平成25年4月に、生産者29経営体で組織する組合が設立され、組合の運営体制が整備された。現在、組合員は増加し45経営体となり、しずおか農林水産物認証の取得にあわせ、生産管理マニュアル、栽培マニュアルが整備されたことで、栽培に関する指導・管理体制が確立した。

**ウ 生産性の向上****(ア) マニュアルの策定**

栽培開始当初の反収は0.6t/10aであったが、栽培マニュアルの作成・周知、栽培試験による栽培方法の改善により、平成25年には1.8t/10aとなった。また、生産量も10tから240tに増加した。

表5 うなぎいもの生産量等の推移

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
作付面積(ha)	1.8	3.0	5.0	13.5	15.6	17.0
反収(t/10a)	0.6	1.5	1.8	1.8	1.5	2.2
生産量(t)	10	45	90	240	228	374
うち青果仕向	0	2	5	18	46	131
うち加工仕向	10	43	80	162	154	243

注1) H22～24は、庭好の実績。H25～は組合の実績。

注2) H27は計画数量

**(イ) 収量の向上、青果仕向の安定生産**

栽培試験により、5月下旬定植での栽培日数や定植方法、株間など、青果仕向のうなぎいもの収量増加に繋がる栽培方法が確認できた。現在、4月定植での栽培実証を実施している。

**(2) 活動に対する生産者・農家の評価**

農林事務所がうなぎいもの産地化支援を開始して5年が経過した。指導対象の生産者や農家からは、「農林事務所が取組の状況を見ながら適切な人や事業を紹介し、時には力強く背中を押してくれ、とてもありがたかった」との評価を受けている。

**(3) 地域農業への普及**

新規農業参入者として、耕作放棄地を活用して規模拡大したうなぎいもの取組は、地域農業の維持発展に大きく貢献してきた。現在も新たな組合員を育成するため、新規就農者を支援しており、今後も地域農業の振興に大きく寄与することが期待されている。

**4 今後の普及活動に向けて**

農林事務所は、「うなぎいも」を浜松発の全国ブランドにするための取組を支援するとともに、ビジネス経営体を核として6次産業化を効果的に取り入れた産地づくりのモデルを構築していく。また、「うなぎいも」を核に、農業、観光、リサイクルなどのテーマパークの構想が検討されており、中期的な視点に立ち関係機関と連携した活動を展開していく。

[目次へ戻る](#)

「知りたい！聞きたい！農薬・肥料」のお客さま相談室より

## 今月のご相談から



### 1. 愛媛県 一般の方

Q：庭の樹木の害虫防除にスミチオン乳剤を散布しようと思っています。散布後、どの位経てば犬を放しても問題はありませんか？

A：散布液が乾いた後ならば薬剤はしっかり葉面に付着していますので、犬を放しても問題はありません。スミチオン乳剤は公園等の樹木の防除にも使用される殺虫剤で安全性が高い薬剤です。

注意点として、本剤は自動車や壁などの塗装面、大理石や御影石に散布液がかかると変色する恐れがありますので、かからないように注意してください。



### 2. 福岡県 造園業の方

Q：べにかなめもち（レッドロビン）のごま色斑点病にベンレート水和剤を使用しています。同じ薬剤を続けて使用するより、アンビルフロアブルと交互に使用した方がいいと思いますが、如何でしょうか？

A：アンビルフロアブルも樹木類に登録があり、ごま色斑点病に登録があるアンビルフロアブル混合製品も販売されています。ベンレート水和剤とは作用機作が異なりますので、交互に使用するの適切な使用方法です。ごま色斑点病の防除は、春先の新芽伸長期に10日間隔で数回散布することで予防できます。今は葉も硬化していますので感染は抑えられていますが、病枝や病葉が感染源です。来年の発生を防ぐためには今後も継続して防除が必要です。本病は雨により発生が拡大しますので、今後は、梅雨期と9月以降の秋芽伸長期にベンレート水和剤やアンビルフロアブルを数回散布してください。込み合っている枝を剪定して風通しを良くし、落葉した病葉を除去するなどでも発生が抑制されます。

### 3. 神奈川県 一般の方

Q：ベストガード水溶剤の登録にレタスがありますが、サニーレタスにも使用できますか？

A：レタスとサニーレタスは、登録上は別の作物分類になっております。サニーレタスは、野菜類、非結球レタス、リーフレタスとしてのグループ登録か、サニーレタスとしての単独登録が必要になります。ベストガード水溶剤は、サニーレタス及び上記分類のグループでも登録がない為ご使用になれません。弊社剤ではダントツ水溶剤がレタスにも非結球レタスにも登録がありますので、サニーレタスにお使いいただけます。

### 4. 大阪府 農家の方

Q：楽一と園芸用スーパーSRコートの特長について教えてほしい。楽一やスーパーSRコートを使用すると収量が増え、品質が向上するのですか？

A：楽一は一発肥で穂肥を省略でき、倒伏を軽減することで登熟歩合が向上し増収します。スーパーSRコートも、第一の特長は追肥の省略です。被覆肥料を配合していますので、長く穏やかに効き果菜類等の長期栽培作物に効果的です。

(酒井)

[目次へ戻る](#)

**農薬登録情報**

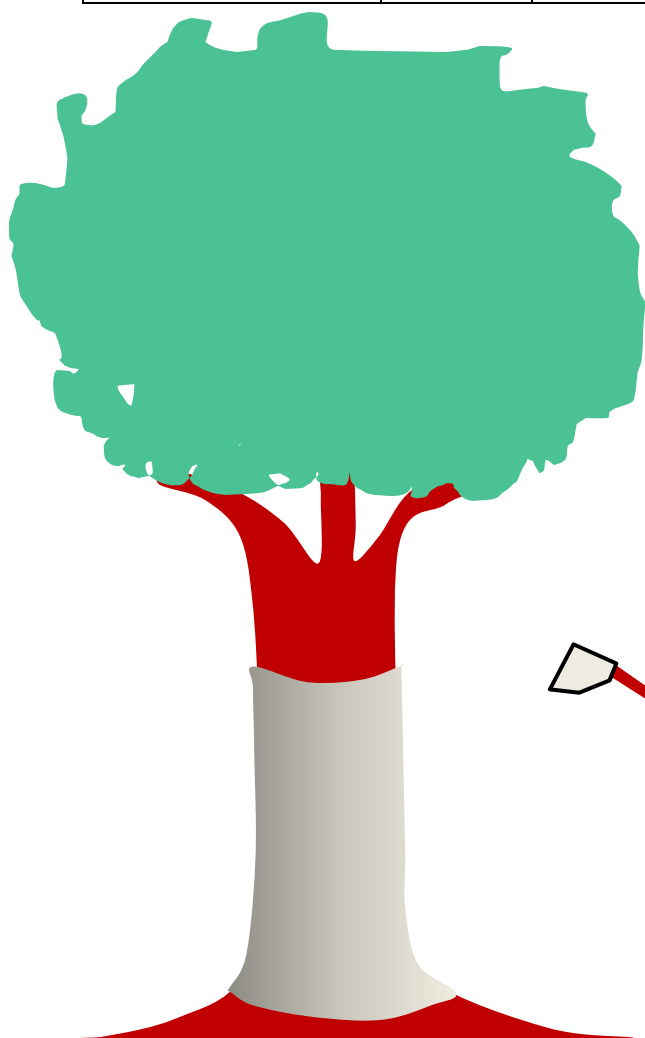
5月25日の主な適用拡大の内容です。

詳細はここをクリックしてください。

<http://www.i-nouryoku.com/prod/tekiyou/2016.html>**殺虫剤**

薬剤と変更日時	変更項目	適用作物	変更前	変更後
ガットサイドS (2016/5/25)	作物変更		大粒種ぶどう及び小粒種ぶどう	ぶどう
	作物追加		みかん、なつみかん いちじく、かき、 くり、ぶどう、 りんご、もも	みかん、なつみかん いちじく、かき、 くり、ぶどう、 りんご、もも なつめ、くるみ
	害虫変更	りんご	ゴマダラカミキリ	カミキリムシ類
	使用方法追加	もも	樹幹部及び主枝に塗布	樹幹部及び主枝に散布又は塗布
いちじく		主幹部に散布	主幹部に散布又は塗布	

(山脇)

[目次へ戻る](#)

# 7月のおすすめ製品



画像をクリックしていただくと、i-農力サイトの詳細ページが表示されます。

## 水稻農薬

### ブラシン



シリーズで良質米作りをお手伝い  
美しい穂の仕上がりに♪

### バリダシン液剤5



稲の紋枯病防除に！  
出穂期の散布でも優れた効果♪

### ダントツ



良質米づくりに 斑点米の原因  
カメムシ類防除の決め手！

### ベストガード



トビイロウカに高い防除効果！  
選べるタイプ&コンビネーションで  
まとめて防除♪

## 園芸農薬

### ロビンフッド



食入孔にノズルを差し込み強力  
殺虫！ヒメボクトウ・カミキリムシ  
類を省力防除。待望の新商品！

### ペンレート水和剤



水稻・果樹・野菜の病害防除！

### ダントツ



幅広い殺虫効果&優れた  
浸透移行性！残効も長い♪

### スクレアフロアブル



なし・もも・豆・葉菜の殺菌剤！  
ついに新登場！！

## 除草剤

### ゼータタイガー



3成分配合でクログワイに底  
力！3製剤勢揃いで新登場！

### ゼータハンマー



2成分で高葉齢のノビエにも  
高い効果！田植同時処理可

### ゼータワン メガゼータ



難防除雑草に優れた効果！  
3剤型勢揃い！

### ゴエモン



ノビエに卓効の新規成分！  
ついにジャンボ登場！

## 肥料

### スミショート



幼穂形成期(出穂 25 日前)  
施用 穂肥が早まり安定多収

### 住友 液肥M号



メチオニン・グルタミン酸  
添加アミノ酸入り液肥

### スミカエース



野菜・果樹・花き・芝生・茶用  
硝酸化成抑制材 DCS 含有

### アシストコート



水稻中晩生品種用基肥一発  
後半の肥効を強化！

[目次へ戻る](#)

# 新 農業高校の今

～福島県立岩瀬農業高等学校編①～

今月から「農業高校の今」をテーマに、全国の農業高校の取組みを不定期で紹介していきます。若者の「農業離れ」が叫ばれる昨今、農業高校に通う生徒が農業に対してどのように向き合っているか、表面上にとどまらず一歩踏み込んだレポートにしたいと思います。1回目は、2013年に渋谷で開催された「マルシェ」(i-農力だより No. 107 参照)に参加していた「福島県立岩瀬農業高等学校」です。

## 学校紹介

岩瀬農業高校は、福島県岩瀬郡鏡石町(東北本線鏡石駅から徒歩約30分)にある県立の農業高校です。明治41年に当時の白河町で創立後、数度の移転を経て今に至ります。職員の数は101名、生徒の数は689名という農業高校では県内有数のマンモス校です。総敷地面積はなんと41ha!敷地内には学校寮も完備しており、遠方からの生徒も受け入れています。農場には田んぼ、野菜・草花の温室、果樹園などの他に畜舎もあり、管理のほとんどを生徒と先生方で行っています。県内で唯一乳牛を飼育し、生乳を加工する施設があることも大きな特色の一つです。

学科は全部で6学科あり、一部が見直され今年度から「ヒューマンサービス科」「アグリビジネス科」が新設されました。特に「アグリビジネス科」は6次産業化に対応するための専門知識を学ぶためのもので、栽培から加工、流通まで幅広く学ぶことができるそうです。



校舎正面。「岩農(がんのう)」の愛称で親しまれています

普通教科の他に、各種実習など各科ごとに関連する農業の専門カリキュラムがあり、学年が上がるにつれその比重は大きくなり、専攻による学習が行われます。また農業高校ならではの特色として、全生徒が「農業クラブ」に所属し、農業に関する「意見発表」や「プロジェクト研究発表」、「農業鑑定競技(例:野菜の名前・特色などを実物鑑定する)」などの各競技において、東北・全国大会に出場できるよう切磋琢磨しています。



学年ごとの生徒数は、各学科 40 名、男女比が 6:4 となっています。農家出身者は 1 割で、専業農家はそのうちの 3 割弱です。卒業後は、6 割以上が就職していますが、中にはさらに専門知識を得るために進学する生徒も少なくないようです。「前向きで目的意識を持ち、将来なりたい職業がはっきりしている生徒が多い」とのことでした。



食品科学科が作ったアイスマイルク



岩瀬高校 HP より。クリックするとサイトへリンクします

Curriculum		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年		国語総合		地理A	数学I		科学と人間生活	体育	保健	音楽I/美術I	コミュニケーション英語I	家庭総合	農業と環境		総合実習	農業情報処理	HR														
2年	園芸生産	現代文B	現代社会	数学A	化学基礎	体育	保健	コミュニケーション英語II	家庭総合	課題研究	総合実習	野菜	果樹	草花	植物バイオテクノロジー	生物活用	HR														
	バイオテック																														
3年	園芸生産	現代文B	世界史A	数学活用	生物基礎	体育	コミュニケーション英語II	課題研究	総合実習	野菜/果樹/草花/植物バイオテクノロジー	農業経営	グリーンライフ	園芸施設	食品流通			HR														
	バイオテック																														

■ =園芸生産コース受講科目    ■ =バイオテックコース受講科目

園芸科学科の3年間のカリキュラム(数字は週単位の履修数)

### 生徒との座談会

ではここから一歩踏み込んで、生徒の声ををご紹介します(学校をお願いし、生徒さんと直接話せる機会を設定していただきました)。写真左から、園芸科学科の皆川先生、園芸科学科園芸生産コース3年の近藤さんと小島さん、そして本座談会の実施にご尽力いただきました、食品科学科の伊藤先生です。

(これより先は対談形式)

筆者:まず、この学校を志望した動機を教えてください。

近藤さん:野菜が好きで、もっと詳しく学びたいと思いこの学校を選びました。ここは広く浅くではなく、より専門的なことを教えてくれるので。

小島さん:小学生の頃から野菜を育てていて、おいしく育てるの



学校らしく、黒板の前に並んでいただきました



がうれしかった。農業に興味があり、将来は農業法人で働きたいと思っています。

筆者：好きな教科、嫌いな教科はそれぞれ何でしょう？

近藤さん：好きな教科は「総合実習」と「体育」です。今はメロンを種から育てています。

皆川先生：水耕栽培で、生徒1人に1畝（27～28株）を任せています。収穫したメロンも生徒達が販売しています。

近藤さん：嫌いな教科は「グリーンライフ」（グリーンツーリズム\*や直売所などの取組みについて学ぶ）です。座学が苦手です。

小島さん：私も「総合実習」と「国語」が好きです。嫌いな教科は「数学」です。

筆者：「総合実習」について、もう少し詳しく教えてください。

皆川先生：水耕栽培で、時期によりトマトなど様々な野菜を育てています。基本的には全て生徒主体で管理させ、収穫物は須賀川市内などで販売させています。我々は引率のみで、販売も全て生徒に任せていますが、いつも完売して戻ってきます。



筆者：それはスパルタですね。見ず知らずの人に売るのは大変じゃない？

近藤さん：最初にお客さんに興味を持ってもらうのが大変です。興味を持ってもらえれば、後はどんどん集まってくれるので楽ですが、その最初の一人に立ち止まってもらうまでが一苦勞で、素通りされることも多いです。

小島さん：最初に声をかけて「いえ、いいです」なんて言われたりすると、心が折れそうになります。

筆者：売るための工夫は何かしていますか？

皆川先生：販売する時はいつも作業着を着させています。一年生には、目的地に到着するとまず大きな声で「岩瀬農業高校から来ました〇〇です！」と自己紹介させます。我々が指導するのはここまでで、後は生徒たちの自主性に任せています。見ていると、自分たちでグループを作り、声かけ担当、袋詰め担当、会計担当など、役割分担を決めているようです。最初は引っ込み思案だったりやんちゃな生徒も、1年経つ頃にはすっかり変わっています。

筆者：値段も自分たちで決めるのですか？

皆川先生：値段は市場価格より少し安く設定しています。お客さんに「これはどうやって作るの？」と聞かれ、生徒たちが丁寧に説明していることもあり、「岩農の作物は安心・安全」という信頼があるようです。

筆者：卒業後の進路について教えてください。

二人：農業短期大学校に進もうと思っています。もっと農業について専門的なことを学びたいです。

筆者：では、今受けている授業の中で、「苦手だけど将来のため学んだ方がいい」と思う教科はありますか？

近藤さん：「農業経営」です。

皆川先生：世界の農業や、今後の日本の農業経営について学ばせる教科です。3年生のみの教科ですので、まだ始まったばかりです。

\*グリーンツーリズム：農山漁村を訪問して、その自然と文化、人々との交流をありのままに楽しむ余暇形態。

前向きで向上心があり、インタビューしていてとても気持ちのいいお二人でした。彼女達は農家出身ですが、学校では農業に関わったことがない生徒達にも一から指導し、農業に対する理解を深め、農業技術の向上を図っているそうです。

今後も節目ごとに本校へお邪魔し、卒業までにどのようなことを学び、成長していくのかを取材していきます。どうぞお楽しみに！（我々も楽しみです）

（太田・竹迫）



樹齢 100 年以上になる「いとひば」  
学校創設から現在までの歴史を見守ってきた岩農のシンボルです

[目次へ戻る](#)

**お知らせ****ロビンフッド販売開始！**

住友化学は、2016年3月2日付で農薬登録した、園芸用殺虫剤「ロビンフッド®」を2016年6月23日から販売開始いたしました。「ロビンフッド®」は、住友化学が開発した合成ピレスロイド系の「フェンプロパトリン」を有効成分とするエアゾールタイプの殺虫剤で、りんご、なしの重要害虫であるヒメボクトウやカミキリムシ類等の穿孔性害虫が適用対象です。エアゾールタイプのため穿孔性害虫の食入孔へノズルを差し込んで噴射処理でき、樹の中に潜んでいる幼虫に優れた殺虫効果を発揮します。


[詳細はこちら](#)
**訪問農家さん募集！**

「農家さん訪問記」の取材にご協力いただける農家さんを募集します！

必要事項を明記のうえ、お客様相談室までご連絡ください。

農家さん(i-農力会員。他薦の場合は、推薦者が会員)であれば結構です。

たくさんのご応募、お待ちしております！！

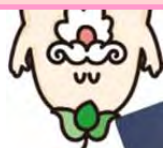

[詳細はこちら](#)
**読者プレゼント実施中！**

「i-農力だより」をご愛読いただいている会員様を対象に、「読者プレゼント」を実施しています！  
毎月「農家さん訪問記」で訪れた地方の特産品(お菓子や加工品)を抽選で1名の方にプレゼントします。  
たくさんのご応募お待ちしております！

## ★応募方法★

今月号の「i-農力だより」で気になった記事を1つお選びいただき、ご意見・ご感想をお寄せください。

応募締切：**7月18日(月)**

[詳細はこちら](#)

[目次へ戻る](#)

**新****i-農力だより農園**

初めまして！今月から「i-農力だより農園」と題し、社員がそれぞれ栽培している作物を順番に紹介していきます。作物を栽培する楽しさや農家のみなさんの気持ちが少しでもわかるよう、頑張ってます。初回は登場人物の紹介です。どんな作物が育つのか？ちゃんと収穫できるのか？どうぞ期待！

## 登場人物紹介



氏家農場長

役 職：農場長(マーケティング部長)

栽培作物：野菜を春～秋に20種ほど、冬に10種ほど

栽培歴：かれこれ10年ちかく

コメント：家内がやりたいと言って始めた家庭菜園ですが、今は亭主の方が力が入っています。ただ最近作業するたびに腰が…。歳ですな。これから我が農場の作業員の奮闘ぶりを鼓舞しながら、我が家の畑もご紹介できればと思っています。よろしくお願いします。



玉置副農場長

役 職：副農場長

(パブリックリレーションチーム統括)

栽培作物：ゴウヤ、キュウリ、ナス、ミニトマト、ピーマン

栽培歴：5年くらい

コメント：野菜とビールが大好きです。ゴウヤはビールの肴+グリーンカーテンに、他の野菜はサラダの具材に。ビールを美味しく飲むために育てています(^.^)。



泉作業員

「美味しい時間へようこそ」もよろしく！



佐伯作業員

役 職：作業員(パブリックリレーションチーム最古参)

栽培作物：バケツで稲苗育て

栽培歴：全くの素人(しかもサボテンをも枯らす特技あり?)

コメント：ひよんなことから稲の苗をもらってしまい、バケツで育てることになってしまいました。どうしましょう!?(汗)

役 職：お客様相談員

栽培作物：トマト、ナス、ピーマン、キュウリ、オクラ、里芋、ジャガイモ、スイカ

栽培歴：2年

コメント：お客様相談の問合せに答えるため家庭菜園を始めました。農薬・肥料は全て住化グループ品を使用しています。

# 来月からお楽しみに！

[目次へ戻る](#)

# 美味しい時間へようこそ♪ 拡大版

## 食べることに集中していますか？

相談室から佐伯がお送りします  
 食べることは生きること。  
 美味しいとはなんと幸せなことか。  
 日々の美味しい話を聞いてくまお届けします。

「最近、食べることに集中できていますか？」こう問われて、ドキッとされた方、多いのではないしょうか？かくいう私もその一人。先日、あるイベントに参加してきました。その名も「暗闇ごはん」。薄暗い部屋の中で、アイマスクを着けて食事をとるという風変わったこのイベントは、もともとは視覚障がい者の方の気持ちを体験してみようということから始まったものだそうです。視覚という大きな感覚を奪われた上でする食事は思った以上に困難で、否が応でも目の前の食べ物に対峙して意識を集中せざるを得なくなります。嗅覚、触覚、温度、味、食感、歯ごたえなど視覚以外のすべての感覚を食事という行為に注ぎ込むことになり、結果として一生懸命食べることになってしまいます。

**このイベントとは、ネットサーフィンをしていて見つけた記事**がきっかけで出会いました。そこには、「私たち現代人は、本当に忙しく暮らしています。たとえば社会人にとっては9時に会社に行くのは当たり前のことです。そのためには何時に家を出ますか？何時に着替えて、家を出ますか？何時にご飯を食べますか？何時に起きますか？多くの人が、今自分が行っている行為そのものではなく、次のこと、さらに次のことを気にして行動を起こしているのではないのでしょうか？どうしたら今、その時に行っていることに集中できるのか。特に食事。せわしない現代人にとにかくただ、目の前の食べるという行為に集中するにはどうすればよいのか、それを可能にするのが「暗闇ごはん」なのです。(以上抜粋・改変)」とありました。この記事を読んだ時、「ぎゃ～まさにこれ！私のことだ！」とガガーンとなったものです。言われたとおり、育児家事仕事で忙しく、常に次のこと次のことを考えていて、少しでも立ち止まったり漂うことはしていません。また、食事中は味わいたくても実際は子供に食べさせるのが精いっぱい、極端に言えば、半分くらいしか味わえていないんじゃないか？と思うくらい。続いて、記事はこう言います。「食べ物そのものの正体にじっくり迫ることは、食べ物、すなわち命に向き合うための確かな入口になります。」ううう。ごめんなさい。まさにそのとおり。食べ物は命をいただくことですもんね。ちゃんと向き合って食べないと失礼だよねえ・・・(どよーん)。

**そこで、一念発起して、子供は旦那に預けて**このイベントに参加してみたのでした。参加者は老若男女30名くらい。会場は畳に長机。食事内容はお寺とコラボしているためか準精進料理。お寺さんがやるらしいし正座して私語を慎みつつ食事するのかな・・・と思っていたら、意外や意外、「足を崩してリラックスしてください。それに、両隣や前の方たちとお話ししながらの食事で結構です」とのこと。「何を食べているのか皆さんであれこれお話ししながら食べてみてください。今食べているものについて話をしながら食べることは食べ物に向き合う上でとても大事なことです。出された食材でいろいろ考えて楽しんでくださいね。」とも。なるほど～。

**料理は一品ごとに出されます。**と言っても、いつ出されたかわかりません(見えないからね)。でも慣れてくると、給仕する人の気配とか、置かれた時の器の音、目の前の料理からの匂いで、あ、今出てきた！とわかるようになります。料理は箸を使ってもいいし、なんなら、手で食べても良しで、ある料理を手で食べてみたら形を認識するのに役立ちました。でも後でアイマスクを取って見たら、手が海苔だらけでびっくりしました(笑)食事中は周りの人とあれこれ言いなが



目の前に置かれたアイマスク

前の席の人、隣の席の人との間隔感はアイマスクをしたまま握手をしたりゲームをしたりで体得する。(間隔がわからないと、知らずに隣の人の食事を食べてしまうこともあるそうです。なるほどごもっとも！)



ら食べました。「これ、何だろう？初めて食べる食感・・・」「リンゴみたいな味がするね」「ひょっとして生なのかな？」「なんか知ってるこれ！たぶん水ナスか何かですよ！」という風に。そうしていると周りの人とも打ち解けて、最後には各所で大盛り上がりでした。見えないわけですから、こぼしてもかまいませんよ。と言われていたけど、うまくこぼさずに食べられました。また、全部食べられなくても仕方ないですよ。見えませんからね。とも言われましたが、たぶん私は、全部食べられた（自信あり（笑））食事時間としては1時間半かけての食事でしたが、途中、「どのくらい時間が経ったと思います？」と言われて、私は集中し過ぎたためか30分くらい？と思ってしまいました。他の人も15分！20分！と、実際より短い時間感覚だったようです。面白いものですね。

「暗闇ごはん」は普段見失いがちなことを気づかせてくれる良いイベントでした。忙しい日々は変えられないけれど、少しでも、落ち着いて今のことを「堪能」できる心を持ちたいと思います。でも、まだまだ私は修行が足りませんね・・・（苦笑）（佐伯）

気になった方は、「暗闇ごはん」「ブラインドレストラン」で検索してみてください



### ～今回いただいた美味しいお料理（と一部感想）～

- ・トマトの澄んだスープ（後で見てもたら透明な液体でびっくり！）
- ・小茄子と蛸の柔らか煮（蛸がわからなかった・・・）
- ・鯛昆布締めと長芋梅漬け（鯛もわからなかったです。私もまだまだですね。）
- ・焼きそら豆 田楽味噌掛け
- ・きのこ海苔和え（これです。手づかみで食べて手が海苔だらけに！（笑））
- ・蕎麦饅頭 筍 絹さや（もちり美味なお饅頭。中は鶏がゴロゴロ）
- ・水茄子の刺身と葉山葵醤油漬け（水茄子は正体見破れました！）
- ・具沢山の蓮蒸し（人参 木耳 三つ葉 海老 イカ 浅利）
- ・じゅんさいの土佐酢浸し 新生姜
- ・彼岸寿司（炒り卵と鶏そぼろ／炒り卵風高野豆腐そぼろと鶏そぼろ風豆腐そぼろ）
- ・豆乳ケーキ レアチーズ風 キウイジャム掛け



夕ネあかし？で出てきた料理全貌

彼岸寿司と豆乳ケーキは撮影し忘れて食べちゃいました。すみません（汗）



心を込めて  
「ごちそうさま  
でした！」

[目次へ戻る](#)

## ～編集後記～



北海道共和町を訪問した際、道の脇にタンポポが今は盛りと咲いていました。あまりに綺麗なので写真を撮りました。北海道はタンポポが大きくて元気です。萼が垂れているのでセイヨウタンポポと思われます。

インターネットで北海道にタンポポが多い理由を調べてみましたが、富山大学理学部のホームページに意外な話がありました。まず、セイヨウタンポポは「野菜として利用するためにアメリカから導入したものが広がった」と伝えられているとのこと。また、(日本には多くの種類や亜種があるが)「それらのなかでニホンタンポポとオキタンポ

ポは二倍体植物で、その他のタンポポは二種の外来種を含め、すべて三倍体以上の倍数体」なのだとか。

更に、「三倍体以上の奇数倍数体では、正常な花粉や卵細胞が形成されないため、正常な種子は稔らないのが一般的です。しかし、すべてのタンポポには果実が稔ります。その理由は、わが国の三倍体以上の倍数体タンポポでの種子は母親の体細胞から形成されるからです。母親の体細胞から種子ができますので、発芽して成長したタンポポは、母親と全く同一の染色体・遺伝子をもっています」とのこと。タンポポにも意外な歴史と秘密が隠されていました。

(泉)

お客様相談室に勤務して1年余。初めての農家さん訪問記の取材訪問でした。

今回訪問した山本さんは35歳の働き盛り。現況と将来の経営についてお話を伺いました。労働時間を考慮して栽培作物体系の確立、栽培だけではなく販売開拓、農業機械などの共同利用、など強い農業経営感覚を持って取り組んでおられます。近い将来起り得る、後継者がいない農家から安心して委託される農家になりたいとの希望も持っておられます。

日本の農業は、後継者不足や海外からの輸入作物の増加など厳しい環境ではありますが、将来に向けて取り組んでおられる農家さんとの話は尽きず、楽しい時間でした。

農薬業界で40余年、営業所での技術開発や営業としては本州のみの勤務で北海道は未経験。山本さんのお話を伺い、改めて北海道でも仕事をしたかったな～と思いながらの取材ルポでした。

(酒井)



次月号の - 農力だよりは  
7月29日(金)の発行予定です。  
どうぞお楽しみに！！



[目次へ戻る](#)